

平成21年度第1回福岡県森林環境税事業評価委員会 議事録

日時:平成21年6月3日(水)13:30~15:20

場所:ホテルレガロ福岡 3階 レガロホールA

1 開会

2 農林水産部長挨拶

[農林水産部長]

森林環境税につきましては、昨年度から導入いたしまして、県民の皆様のご理解や市町村のご協力を得て、円滑にスタートできたところです。

昨今の林業を巡る情勢は非常に厳しいものがあり、その関係で、手入れが行き届かない人工林が増加しております。また、森林は単に木材の生産だけではなく、我々の生活に幅広く影響を及ぼす公益的な性格を持っており、この森林を守り育てる費用を県民の方々に負担していただくために森林環境税が導入されたわけであります。

平成20年度は、荒廃した森林を再生するための間伐等を千2百ヘクタール、県民参加の森林づくりについては、5千名を超える県民の方々の活動を支援し、初年度としては順調にスタートできたと考えております。

森林環境税は、県民の皆様のご理解とご協力があって初めて成り立つものであるため、事業の取り組み状況等を広く県民に周知するとともに、ご理解いただく努力を引き続きやっていくことにしております。

本日は平成20年度事業の実績の評価をお願いすることとしておりますが、委員の皆様におかれましては、それぞれ専門的な立場から、忌憚のないご意見を賜り、今後の事業の推進に活かしていきたいと考えております。

3 委員長挨拶

[委員長]

今日の午前中は、森林環境税による事業で、森林を整備した現地を視察させていただきました。大変立派な森林になっており、事業の成果が大いに上がっているのではないかと感じたところです。

委員の皆さんには雨の中で足下が悪かったですが、地元市役所及び森林組合、県の方に来ていただき、大変懇切にご説明いただきました。

評価委員会は、森林環境税による事業の実績を評価することと併せて、より使いやすい事業にしていくということも使命の一つですので、そのような見地からも議論していきたいと思っております。

どうかよろしく申し上げます。

[司会]

(配布資料の確認)

- ・ 資料1 平成20年度森林環境税による事業の実績について
- ・ 資料2 平成20年度荒廃森林再生事業の実施例
- ・ 資料3 平成20年度森林づくり活動公募事業実績一覧表

- ・ 資料4 平成20年度森林づくり活動公募事業の概要
- ・ 資料5 平成20年度森林づくり活動公募事業実施団体アンケート集計結果
- ・ 資料6 荒廃森林再生事業効果調査について
- ・ 平成20年度荒廃森林再生事業の市町村別一覧表
- ・ 森林環境税事業のリーフレット

[司会]

議事の進行につきましては、福岡県森林環境税事業評価委員会設置要綱第6条の規定により、委員長が努めることとなっておりますので、堺委員長、議事の進行につきましてよろしくお願ひします。

4 平成20年度森林環境税による事業の実績の評価

[委員長]

それでは、まず午前中の現地視察についての印象を伺いたいと思います。

[委員]

地元市役所と森林組合、そして県の方から事業の取り組みや森林の公益的機能について、説明を聞かせていただき、非常に今後の参考になったと思います。

現地はヒノキ林で間伐と枝落しが実施されていましたが、雨天の中であれだけ林内が明るくなっているということは、非常に良かったと思いました。

市と森林組合の方の話から、事業の取り組みは結構うまくいっていると感じました。

[委員]

初年度であったことから、事業を担当された方々は大変だっただろうと思いました。

現地については、もっと山深い所を想像していましたが、比較的道路から近かったため、この事業は県内いろんな場所で実施されたのだと思いました。林内が明るくなって、下草も生えていないようなところに草を生やして、水を沢山含むような森林に再生していく必要があると実感してきました。

[委員]

現地で関係者の方々の話を聞いて、健全な森林とそうでない森林について実感できました。健全な森林にするためには、大変な苦勞がいることも併せて実感しました。

[委員長]

現地の伐採木は大変細いことなどから、短く切って林内のあちこちに整理してありましたが、やはり、伐採木は林外に搬出して何らかの形で有効活用する仕組みをつくるべきではないかと思いました。

しかしながら、現在の事業が無駄になっているということではなく、事業そのものは大変有効に機能しており、更に付け加えればという意味での感想を言いました。

[委員長]

それでは、「平成20年度の森林環境税による事業費及び基金の状況」と「荒廃森林再生事業の実績」について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1、資料2により説明)

[委員]

全体計画に対しての事業進捗や予算の状況は、当初に見込みと比べてどうなのかということについて、お聞かせ願います。

[事務局]

平成20年度は1年目であることから、荒廃森林調査や作業路を先行して実施しております。全体の見通しとしては、10年間で2万9千ヘクタールの再生を、当初の見込みどおり実施できると考えております。また、平成20年度に実施した調査により、平成21年度以降の事業の対象となる森林を既に2千ヘクタール以上特定しております。

[委員]

荒廃森林の調査を8千ヘクタール以上も実施した点については、評価できると思います。

荒廃森林の再生の全体の見通しは、事務局から説明があったとおりでしょうから、平成21年度に期待するとしまして、初年度の取り組みとしては大変良い結果だと思います。

[委員]

市町村の実績に結構ばらつきがあるように見受けられますが、その点についての説明と、平成21年度の現在の取り組み状況と市町村の意向について教えてください。

[事務局]

実績のばらつきについては、市町村それぞれの実情の違いにより生じております。調査と間伐などの事業についての取り組み方に違いがあることや、森林所有者が地元にはいないために協定締結に時間を要しているとか、森林所有者の数が非常に多いことなどから森林所有者の特定に時間を要しているといった市町村がありまして、このような結果になっております。

平成21年度の事業については、既に第1回目の市町村への交付金の決定を行っております。取り組みの早い市町村においては、調査などに取っかかっていると聞いております。

市町村の意向については、事前に調査した結果、県の予算以上の要望が上がってきている状況です。

[委員長]

次に「^{もり}森林づくり活動公募事業の実績」について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1、資料3、資料4、資料5により説明)

[委員]

^{もり}森林づくり活動公募事業は、森林に関する理解度や税事業の認知度を反映している事業です。平成20年度の実績を見ると、その効果が非常に出ており、有効な事業であると感じました。

今後、応募が更に増えることを期待します。

[委員]

この事業は県民の皆さんに浸透し、今後益々応募も増えていくであろうと思います。

初年度に5,783人の参加者があったということは、すごい事だと思います。

来年度以降についても、私の周囲で話題になっており、現実的に事業が広がっているのを感じます。

[委員]

この事業は、ボランティア活動による意識の高まりとともに、森林の整備にもつながる、一石二鳥のねらいを感じます。今後、応募団体数が益々増えていけば、やはり予算を増やすようお願いします。

[事務局]

平成20年度は、応募件数が43件でしたが、21年度は57件と増えています。応募が増えることで、予算の検討も必要になってくると考えております。

また、応募団体からは、募集期間が短いというご意見をいただいております。募集期間を少しでも長くして、多くの団体から応募がいただけるよう検討して参りたいと考えております。

[委員長]

今後、益々応募が増えていくことが予想されるというのは、事業実績として大変評価できる場所だと思います。

これは、県の方々が大変努力された結果だということを重々承知しております。

今まで森林に関心の無かった人たちまでも応募されてくるということになったら、一層、森林環境税の趣旨が反映されるわけですので、県の皆さんには引き続きご努力をお願いしたいと思います。

それでは、次に「情報発信事業の実績」について、事務局から説明願います。

[事務局]

(資料1、森林環境税事業リ - フレットにより説明)

[委員]

最近、食や食育の大切さがよく言われております。食もそうなのですが、やはり、森林の大切さなどについても、子供たちに対する教育をしっかりとやっていく必要があると思います。

情報発信事業では、特に小中学生に向けた様々な取り組みが行われているようですが、小中学校への講師派遣とか、教職員に対する研修などについては、可能なかぎり実施していただきたいと思います。今後この点については強化していくべきだと思います。

[事務局]

平成20年度の小中学校への講師派遣の実績は4校でしたが、平成21年度については、更に裾野を広げるため、回数を増やして実施することとしております。

[委員]

以前、水のフォーラムというイベントが私の住んでいる市で開催されました。森林が全く無い市での開催でしたが、会場は参加者でいっぱいでした。やはり、森林の無い地域においても上流側の森林から水という恵みをいただいているものですから、森林に対する関心が非常に高いと実感しました。

今後、森林環境税事業をより県民の皆さんに浸透させていくためには、森林に関する講演会の開催などはとても役立つのではないかと思います。

[委員]

私も森林環境教育はとても重要と思います。これにはもう少し力を入れていただきたいと思います。子供の時から森林に親しむということは、とても大事なことだと思いますので、よろしくお願いします。

それから、個人的に森林づくり活動安全講習会に参加したのですが、その中で、消防士の方から人工呼吸など、いろんな事を教えていただき、大変参考になりました。このようなことを知っておくことは、ボランティアに参加する人達にとっては大事なことと感じましたので、この取り組みについては引き続き実施していただきたいと思います。

[事務局]

森林づくり活動安全講習会につきましては、森林での作業は伐採や急傾斜地での作業等、いろいろな状況に対応するために必要な安全講習会を、今後も続けて参りたいと考えております。また、森林ボランティアの皆さん方に幅広く参加していただくよう周知を図っていきたくて考えております。

[委員長]

教職員に対しての研修については、学校教育の中でそれがどのように反映されているのか、数年後には検討が要るのではないかと思います。

[委員長（総括）]

事業毎の実績について評価をして参りましたが、それぞれの内容について短時間でしたが非常に的確な議論ができたと思います。

まず、「荒廃森林再生事業」については、平成20年度の取り組みにより、平成21年度は県の予算を上回るほどの要望が市町村から上がってきており、初年度進捗率4パーセントは一見小さな数字ですが、事業は順調にスタートし大変良くやっていると評価します。なお、予算と進捗率については、今後、十分留意しながら目標、あるいは事業予定地をできるだけ早く確保する努力をしていただきたいと思います。森林環境税は森林を良くするために、県民に負担していただいているわけですから、しっかりと活用していくよう、一層の努力をお願いします。

次に、「森林づくり活動公募事業」については、初年度としては予想以上に応募が多く、この事業により、県民の森林に対する認知度というのは相当高まったのではないかと思います。これは森林環境税の目的でもあり、非常に良いことであると思います。しかも、初年度の参加者が5,783人ということで、この数字については大変評価できると思います。今後、応募件数は更に増えることが予想されるため、平成22年度の予算の確保について努力をお願いしたいと思います。

最後に、「情報発信事業」については、子供たちに対する森林環境教育は、大変重要であるため、今後更に、内容を充実させるとともに、関係者と連携を図りながら、取り組みを強化していただきたいと思います。それから、森林の有無に関係なく、県民は森林に関心を持っているため、それに答える

ような、森林に関する講演会などの活動も今後検討する必要があると思います。また、森林づくり活動安全講習会についても、大変重要で意義があるため、今後も継続していただきたいと思います。この他、県民の森林に関する理解を高めるための活動は、もっといろいろあると考えられますので、今後、より工夫して取り組んでいただきたいと思います。

以上を持ちまして、平成20年度の森林環境税による事業の実績の評価と若干の提言といたします。

[委員長]

それでは次に、「荒廃森林再生事業の効果調査」について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料6により説明)

[委員]

調査は何箇所で行うのですか、また、調査期間についてはどのように考えていますか

[事務局]

調査箇所は、県の出先6農林事務所毎に1～2箇所を予定しております。

調査期間は、植生調査と土砂流亡量調査については毎年、毎木調査については、5年を目処に実施します。

[委員長]

効果調査を実施して、数値的に説明すると、県民の理解が深まりますので、このような取り組みについては大変良いことだと思います。

5 閉会

[委員長]

それでは、以上をもちまして平成21年度第1回森林環境税事業評価委員会を終了します。

[森林保全課長]

県といたしましては、本日いただきました平成20年度事業の実績に対する様々なご意見を活かし、今後も「荒廃した森林の再生」と「県民参加の森林づくりの推進」のための事業に取り組んで参りたいと考えております。

本日は、誠にありがとうございました。